

☆本号は、研究ノートと書誌からなります。

☆南氏は、幕末期に江戸町人が捨子養育所や困窮者収容所の設立を請願したものの町奉行所に認可されなかった顛末を紹介し、併せてその歴史的、社会的な意義を論考しています。これらの町人の訴状で注目に値するのは、土地の借入を願い出る一方で、施設の設立や運営経費の捻出方法を具体的に提案している点です。旧幕府引継書の中から、江戸末期の社会福祉をめぐる役所と町人の間のやりとりが生き生きと描かれています。素材となった史料の翻刻とその影印も掲載しました。

☆「インキュナブラ」とは、ラテン語で揺り籠を意味し、グーテンベルク以降1500年末までに金属活字で印刷されたものを指します。書物だけでなく、多数印刷された「免罪符」もそのひとつです。まず、折田氏が「インキュナブラ」の概念とそれらの複製版を出版史上から解説し、その後、当館所蔵の複製版インキュナブラ230点の目録を掲載しました。これは読む目録であることも意図しており、当館所蔵の複製版インキュナブラ全体を初めて紹介するものです。ちなみに当館ではオリジナルのインキュナブラは、アルベルトゥス・マグヌスの *De mysterio missae* (1473年) など13点を所蔵しています。もちろんすべて貴重書です。 (村上)

『参考書誌研究』は日本図書館協会から販売されています。同協会の連絡先は下記のとおりです。

〒104-0033 東京都中央区新川 1-11-14 電話 03-3523-0811(代表)

○編集委員

森山 高根		
尾崎 広一		
宇津 純 (参考課)	柳沢 房子 (官庁資料課)	
村上 清子 (")	井坂 清信 (政治史料課)	
鈴木美恵子 (")	吉田 孝子 (科学技術資料課)	
川本 勉 (")	鴫田 潤 (アジア資料課)	
加藤 浩 (")	松谷英佐子 (特別資料課)	
高橋 貞子 (")		

参考書誌研究 第51号 平成11年10月5日発行

編 集 国立国会図書館専門資料部

発 行 国立国会図書館

東京都千代田区永田町1の10の1

(〒100-8924)

電 話 3581-2331 (代)

ホームページ <http://www.ndl.go.jp>

印 刷 株式会社 ディグ 電話 3551-3060 (代)

本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜すいし転載されるばあいには、事前に専門資料部参考課へ連絡してください。